

住友のルーツ「新居浜4社」が体現する事業精神

愛媛県東部に位置する新居浜市。瀬戸内海に面するこの工業都市の発展は、住友グループと共にあった。まだ江戸期であった1691年、住友家によって別子銅山が開坑されたことを端緒に、やがて採掘された粗銅を輸送するための物流中継地となる浜宿を新居浜に設置。世は明治に移り、1888年には増産に合わせ洋式製錬所も開業する。ここから新居浜の工業都市化が始まり、鉱山業の「住友金属鉱山」、銅山で用いる機械や器具を製造・修理する「住友重機械工業」が創業した。

順調に増産を続け工業都市として発展を続けていた一方で、1899年にははげ山となってしまっていた別子銅山に大雨が降り、大規模な水害

が発生してしまったことから、「住友林業」の前身となる植林事業を大規模に開始。また、大正期の1913年には、粗銅の製錬時に発生する亜硫酸ガスによる煙害を処理する会社として「住友化学」の前身となる肥料製造所も設立している。

このように別子銅山の操業と、そこから派生した「住友金属鉱山」「住友化学」「住友重機械工業」「住友林業」を合わせた4社は、「新居浜4社」と呼ばれグループの象徴的な存在となっている。住友グループのルーツともいえるこの新居浜4社が、事業系の会社と今日のSDGsやESG、サステナビリティにつながる会社で構成していることも、住友の事業精神をよく体現している。

住友グループを代表してごあいさつ申し上げます。人類は今、新型コロナウイルス感染症という大きな困難に直面し、あらゆる局面で変化を余儀なくされています。同時に「コロナ禍」は、社会が抱えていた本質的な危機、すなわち「社会の分断」と「サステナビリティ」の危機をさらに増幅させています。格差拡大によるポピュリズムや自国第一主義の台頭は世代や貧富の分断、ひいては米中覇権争いに代表される世界の分断を生み、地球温暖化やパンデミックなどの生態系破壊は人類社会のサステナビリティの危機を招いています。こうした危機を背景に、これから5年、10年をかけて世界は新たな秩序を形成

じりりたこうしいちによ
「自利利他公私一如」を体現し、
持続可能な社会を築く

していくと思われませんが、その際に私たちが「正義・公正」の観点と「社会性」の観点を立脚する必要があります。「社会性」とは、SDGsやESGにつながるものであり、「自利利他公私一如（じりりたこうしいちによ）」をはじめとする430年にわたり培われてきた住友の事業精神は、こうした考え方や親和性が極めて高く、迷った時に常に立ち返る共通の原点として、脈々と受け継がれ、今も住友グループ各社に深く浸透しています。

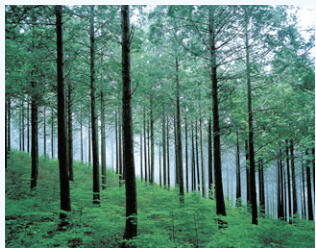
「新しい」未来においても、住友グループは、人類が直面する地球規模の課題に対し、ソリューションを通じてソリューションを提供し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



住友化学
代表取締役会長 十倉 雅和氏

次世代に引き継ぐ未来のカタチ
トップメッセージ
～未来への約束

430年におよぶ住友グループの歴史に通底して流れる事業精神、そこには始まりから「正義・公正」や「社会性」というサステナビリティにつながる視点があった。地球温暖化やパンデミックなど、世界全体で取り組まなければならない喫緊の課題を抱えた現在は、そんな住友の事業精神の追求がますます求められる局面を迎えている。企画の最後に、住友グループのルーツである「新居浜4社」の代表が寄せる「未来への約束」をお届けする。



住友林業
当社は森林経営を礎に、国内外で木材建材の製造・流通事業、住宅関連事業、バイオマス発電事業まで、「木」を軸とした事業を川上から川下まで幅広く展開



住友金属鉱山
住友グループの源流事業を受け継ぐ当社は、資源開発と鉱山運営、非鉄金属を生み出す製錬、そして機能性材料製造までを一貫して担う、世界でも類を見ない



住友重機械工業
住友重機械工業は、1888年、住友グループの祖業である別子銅山開採で使用した機械・器具の製作と修理を担う「工作方」として創業しました。創業以

森林が持つ「公益的価値」を高め
持続可能な社会の実現へ

森林はCO₂の排出量抑制機能に加えて、水源涵養（かんよう）や土砂災害防止、生物多様性保全、レクリエーションの場の提供など環境的、社会的価値からなる「公益的価値」があります。今年9月には、これら「公益的価値」の定量化などを目的に東京大学



代表取締役社長
光吉 敏郎氏

未来を形づくる
非鉄金属素材を安定して提供

銅やニッケルなど非鉄金属は、建設材料、通信、産業用機械、自動車、航空、船舶など、現代社会のさまざまな分野で利用されており、暮らしに欠かすことのできない素材です。一方で、天然資源は有限であり、未利用資源、難処理資源の有効化やリサイクル技術開発が欠かせません。

当社は長年培ってきた技術力を生かし、2017年に日本初のリチウムイオン2次電池の再資源化プロセスを実用化しました。これは、使用済み電池から銅とニッケルを回収する循環型社



代表取締役社長
野崎 明氏

一流商品とサービスの提供を通して社会に貢献

来、「一流商品とサービスの提供を通して社会に貢献する」という企業理念のもと、総合機械メーカーとして、時代の要求に応える多様な製品やサービスを提供してまいりました。

近年では、バイオマス発電システム、梅調液処理のバイオガス発電型廃水処理システム、使用済み紙おむつリサイクル設備、最先端のがん治療装置、物流倉庫自動保管システム、協働ロボットなどの製品の提供や、省エネ、省資源化、自動化、安全性などの製品機能の向上を通じて、社会課題の解決に貢献していま



代表取締役社長 CEO
下村 真司氏

住友グループ広報委員会

住友グループ各社のご案内
<https://www.sumitomo.gr.jp/committee/company/>



広告

日経電子版広告特集

SDGs × 住友グループ 430年の歩みと未来

「キーパーソンによる座談会」をご覧ください。→
<https://ps.nikkei.co.jp/sumitomo2020/>



特別座談会 01 住友グループのSDGsへの取り組み



三井住友銀行
経営企画部
サステナビリティ推進室長
竹田 達哉氏



三井住友信託銀行
経営企画部 フェロー役員
チーフサステナビリティオフィサー
金井 司氏



住友不動産
企画本部
企画部長
茂木 哲也氏



住友生命保険
運用企画部長
藤村 俊雄氏



三井住友海上火災保険
執行役員
財務企画部長
早川 琢磨氏



住友商事
インベスター
リレーションズ部長
山根 正裕氏

特別座談会 02 ESG投資の潮流 ～非財務価値の重要性～